

2015年度 関東U-17トレセン対抗戦

報告者:堀 達也(大宮武蔵野高等学校)

1.日程

2016年2月27日(土)~28日(日)

2.メンバー

	氏名	所属校		氏名	所属校
監督	堀 達也	大宮武蔵野	コーチ	長谷川 暁雄	久喜
コーチ	福島 巖	越ヶ谷	コーチ	檜村 和也	和光国際
トレーナー	坂本 佳宣	駿河台大学			
GK	松本 紗和(2)	久喜	MF	村山 凜子(2)	久喜
GK	三友 里紗(1)	和光国際	MF	渡辺 里佳子(2)	久喜
DF	田中 天乃(2)	南稜	MF	贄田 瞳(2)	山村学園
DF	秋山 チエ(2)	浦和西	MF	設楽 実咲(2)	昌平
DF	浅倉 あずさ(2)	川口総合	MF	根岸 里歩(1)	花咲徳栄
DF	小林 実紗(2)	入間向陽	MF	齋藤 和歩(1)	南稜
DF	藤田 佳乃(2)	山村学園	FW	風間 菜々(2)	花咲徳栄
DF	青山 美里(2)	花咲徳栄	FW	深谷 綾乃(2)	入間向陽
DF	加藤木 美桜(1)	花咲徳栄	FW	君塚 夕佳(2)	南稜
DF	中川 真理子(1)	南稜	FW	円城寺 恭子(1)	浦和実業

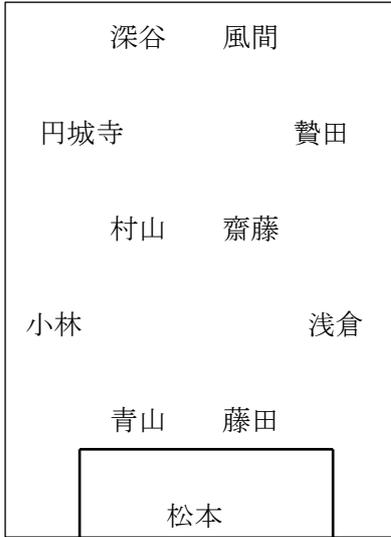
3.事前トレーニング

- 1 1月23日(月) レッズランド人工芝 選考会①(8対8のハーフコートゲーム)
- 1 2月13日(日) 大宮武蔵野高校G 選考会②(11対11のゲーム)
- 2月21日(日) 大東文化大学G 遠征メンバーによるトレーニングマッチ

4.大会結果

月 日	対戦相手		結果・得点者
7月11日(土)	予選①	栃木県	○ 2-1 (風間、贄田)
	予選②	山梨県	○ 6-1 (風間2、君塚、田中、設楽2)
7月12日(日)	予選③	東京都	○ 2-0 (根岸、深谷)
	決勝	神奈川県	● 0-2 (なし)
※試合時間は60分。決勝のみ70分。			

VS 栃木県



(交代はすべてハーフタイム)

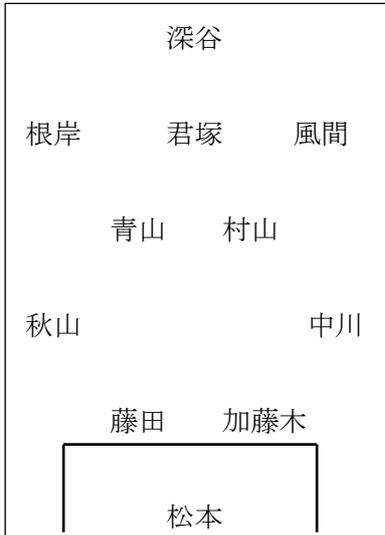
松本⇒三友  
 小林⇒秋山  
 青山⇒加藤木  
 浅倉⇒中川  
 齋藤⇒渡辺  
 贄田⇒設楽  
 深谷⇒君塚  
 風間⇒根岸  
 藤田⇒田中

VS 山梨県



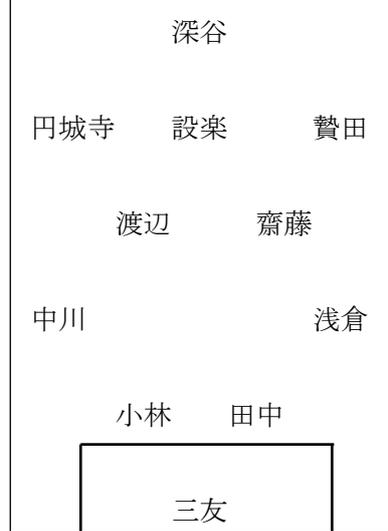
君塚⇒設楽  
 風間⇒贄田  
 松本⇒三友  
 齋藤⇒青山  
 渡辺⇒小林  
 藤田  
 ⇒加藤木  
 深谷⇒浅倉  
 (以上HT)  
 秋山  
 ⇒円城寺  
 田中⇒村山

VS 東京都



風間⇒贄田  
 村山⇒田中  
 中川⇒浅倉

VS 神奈川県



深谷⇒風間  
 設楽⇒村山  
 贄田⇒根岸  
 円城寺  
 ⇒秋山  
 中川⇒青山  
 小林⇒藤田  
 田中  
 ⇒加藤木

## 5.総評

今回の遠征にあたり、2度の選考会を経て、メンバーをセレクトした。今回も、各チーム監督からの推薦選手を選考会を経て選抜する形で選出した。そのため、選考会に参加していないチーム・選手は選考していない。7月のU-18トレセン参加選手10名は引き続き選出された。今回初めて選出される選手との融合が一つの課題になると考え、直前の2月21日に大東文化大学でゲームを行わせていただき、チームコンセプトの確認と共有を行った。

なお、今回の遠征は2年生14名、1年生6名の20名で遠征に参加し、前回のU-18トレセン大会の決勝で敗れた悔しさを晴らすべく、全勝での優勝を目標に、目の前の試合に誰が出て同じコンセプトでゲームを行うことを目標とした。今回のトレセン大会にあたり、U-18大会での反省も生かし、セレクション後に大東文化大学女子サッカー部のご好意で事前にトレーニング、トレーニングマッチを行うことができた。チームとしての意思統一、意識改革を図ることができたことが、今大会での成果にもつながったと考えられる。今後もメンバーセレクト後のトレーニングを検討していきたい。(通年での活動ができればその必要ななくなると考えている。)

とはいえ、チームとして大会に出場するのは年2回のトレセン大会だけなので、チームとしての成熟を目的とはしていない。チームに戻ったときに今回の経験を還元することや、普段のチームコンセプトとは異なる戦術の中で、以下に早く理解し、体現していくかという「個」の成長を目的としている。特に後者に関しては、今後サッカーを続けていく上で、より高いレベルのチームでのプレー時に、「引き出し」が多いほうが柔軟に対応できると考えられる。そのためにもこのようなトレセン活動を通じてさまざまな指導者の指導を受けることで、さまざまなサッカー観にふれることが成長につながってくれることも期待したい。

最近のトレセン大会の総括で毎回書いているが、リーダーシップをとってコーチング出来る選手が少ないことが一番の原因である。チームでは中心選手として活躍している選手たちで、またチームでは勝利のためにチームを引っ張ることが出来る選手たちであるにも関わらず、遠慮が見られる場面が多い。ただし、今回のメンバーの中には、下級生ながらコーチングができる選手もおり、そういった選手が1人でも多くなることを期待したい。

また、これも毎回の総括に書いているが、ボールが近くにいる選手たちのかかわり(予測)が甘く、ボールがどう展開されるか、どこに出されたくないかということを意識できていない場面が多く、簡単に相手にボールを保持されてしまう場面が多かった。

毎回総括に書いているということは、遠征を通じて改善させられていないということでスタッフとして反省するとともに、遠征だけで改善する難しさも実感している。意識の一部を変えていき、チームに戻ってからも意識を継続させていけるような働きかけの方法を確立していく必要があると感じている。

### <守備面>

攻めているときの守備陣のポジショニング(リスクマネジメント)とともに、守っているときの攻撃選手の動き出しの遅さ(予測の遅さ)が目立った。セカンドボールが拾えない時間が多かったのは、や

はり展開やボールの状況、さらにはボールを保持している選手の状態までを頭に入れて予測ができていないということである。また、奪ったボールをダイレクトで味方にあてるのか、トラップをすること余裕があるのか、という状況判断まで出来るくらい、事前の準備を大切にしてもらいたい。さらに、ヘディングでの競り合いを苦手とする選手が多いことも気になった。競り合いながらも正確に距離を稼げるヘディングのクリアができる、フリーでヘディングのパスができる、といった技術面で物足りなさが残った。

#### <攻撃面>

攻撃の選択肢として、相手の背後を狙う選手が多かったのは良いことであったが、選択肢がその1つしかなく、苦しい状況でも相手の背後を狙ってしまう選手が多かった。(特に第1戦目) そのため、第2戦目からは、ボールの保持率をあげていくことを要求した。そのための関わる選手たちの数を増やすこと、フォローする位置などを指示したが、そのせいか背後を狙う選手が減ってしまうことになった。相手の状況を確認し、時には背後を狙うこと、背後を狙うためにボールをあわてずに保持しながらチャンスをうかがうことなど、動きながら状況判断が早く出来るようになり、それを実行できるスキルを身につける必要性があることを感じさせられた。

また、キックの質も相変わらず課題である。セットプレーのキックのスピードや、1つ1つのパスのスピードや質は向上の余地が十分にあると感じた。今後、各自の意識ひとつでかわってくるので、より高い意識で取り組んでもらいたい。

#### <トレセン大会全体を通して>

東京都や神奈川県トレセン選手たちは状況判断が良く、特に神奈川県トレセンの選手たちはスペースを空けるための動き出しや、相手の前からのプレスをかいくぐるボール保持と背後を狙う動きの連動、緩急のついた動きなど、よく「サッカー」というものを知っているという印象を受けた。その差を埋めるためにも、参加した選手たちには伝えたが、もっと「サッカー」を観て、「サッカー」を知っている必要があると感じた。

#### 6.最後に

初めて一緒にプレーをするメンバーもいるなか、普段とは異なるコンセプト、ポジションでの取り組みになった中で、選手たちが前向きに取り組んでくれたことに大変感謝します。今後の成長につながっていければ幸いです。今回の遠征で、さまざまなタイプの質の高いチームと対戦できたことをチームに戻って今後の大会などでの活躍につなげ、チームに還元してもらえればと思います。

本遠征を、大きな怪我なく無事に行うことができたことは、各所属チーム監督をはじめ、関係者の皆様、保護者の皆様のご協力のおかげです。感謝いたします。考査直前、考査中などコンディションが整にくい時期にもかかわらず、快く選手を派遣していただいたチーム関係者においては深くお礼申し上げます。また、福田技術委員長、荻野ユースダイレクターも大会会場に足を運んでいただき、まことにありがとうございました。以上、トレセン大会の遠征報告とさせていただきます。